

涸沢一劔岳縦走報告

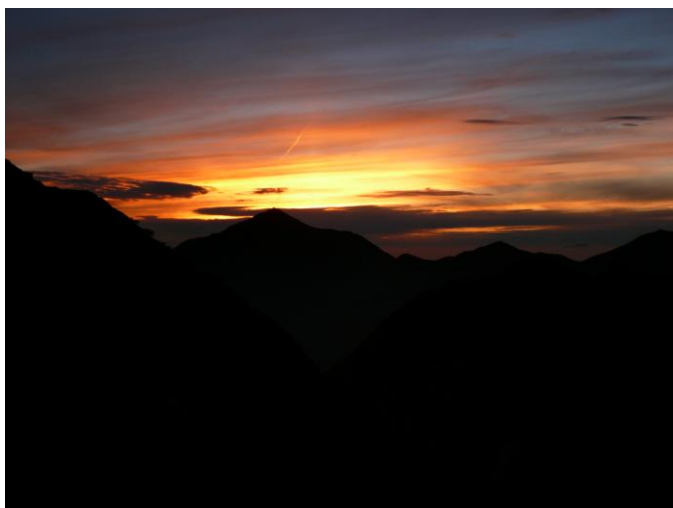
8月2日～9日

M2只左一也

1日目（8月2日）

涸沢～奥穂高岳～新穂高

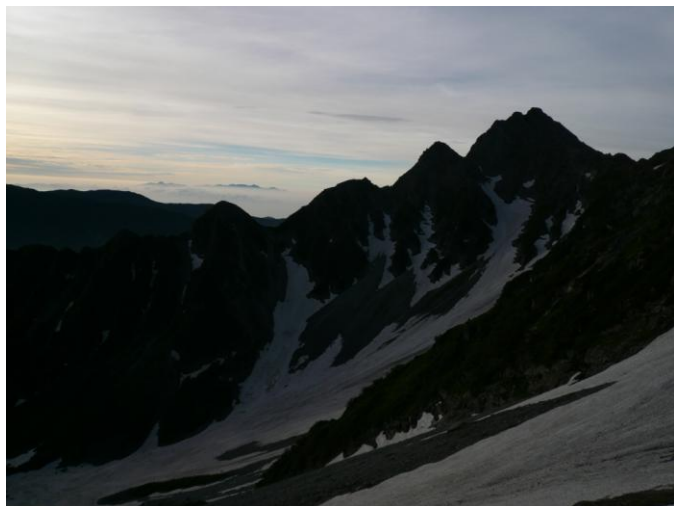
涸沢 3:50 — 6:10 岐大診療所 7:15 —
8:00 奥穂高岳 10:00 — 10:20 岐大診療所
10:50 — 12:55 荷継小屋跡 13:25 —
14:10 重太郎橋 — 15:05 白出沢出合 — 16:
00 新穂高温泉 — （バス） — 槍見 — （車道歩
き 30分） — 18:00 中尾キャンプ場（幕営）



朝焼け。中央は常念岳。



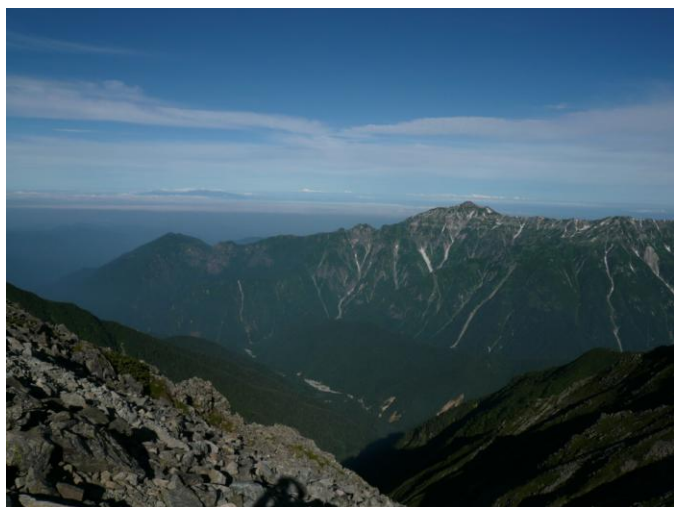
早朝の涸沢カール上部



前穂北尾根と八ヶ岳



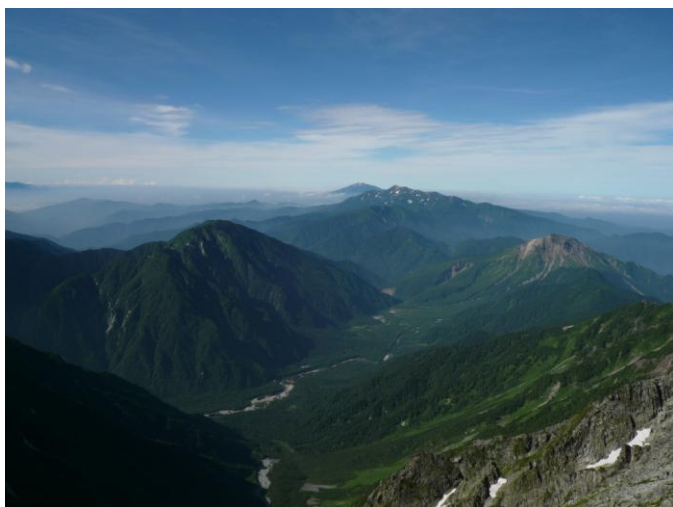
韓国からの大集団で渋滞する奥穂への登り口



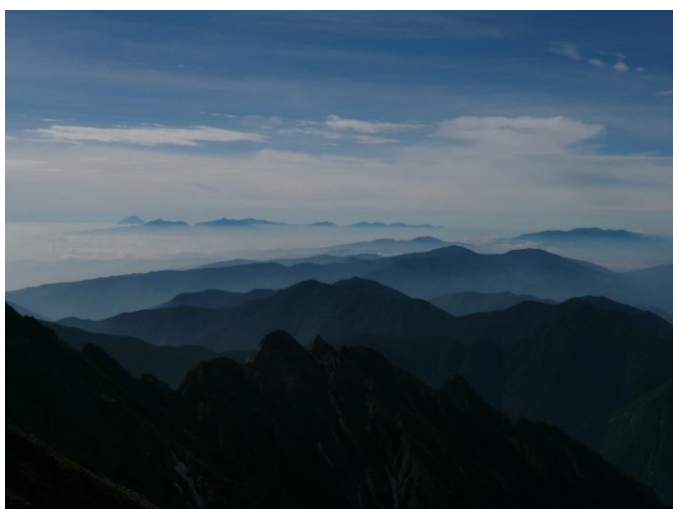
岐大診療所から見た笠ヶ岳と白山（左遠方）



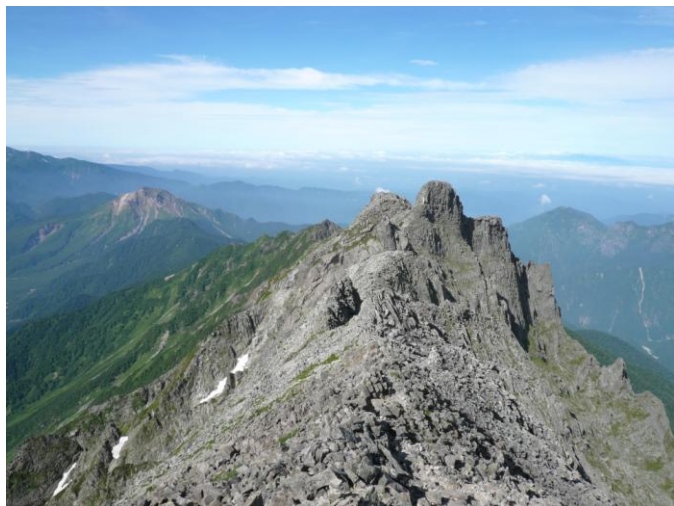
奥穂高岳山頂。以下の写真はすべて山頂から。



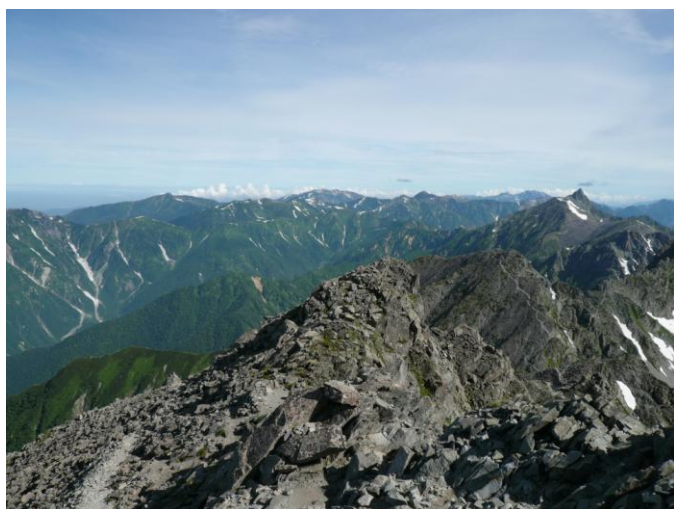
上高地をはさんで右に焼岳、左に霞沢岳。その向こうに乗鞍岳、そのさらに遠方は御嶽山。



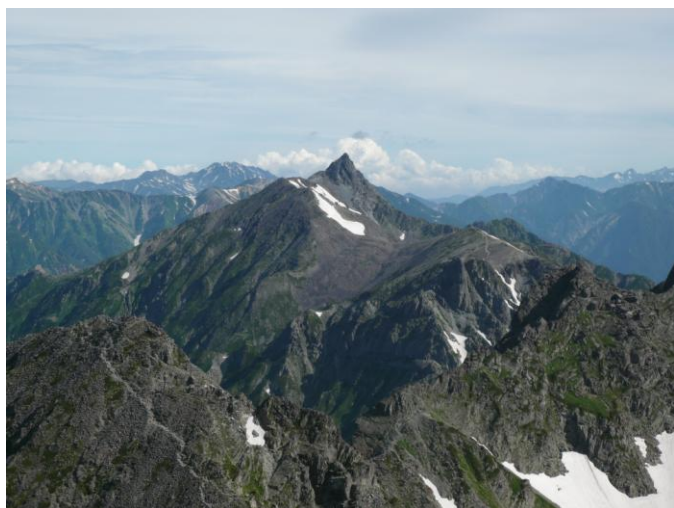
明神岳の尾根越しに見る遠くの山々。
左から、富士山、南アルプス、中央アルプス。



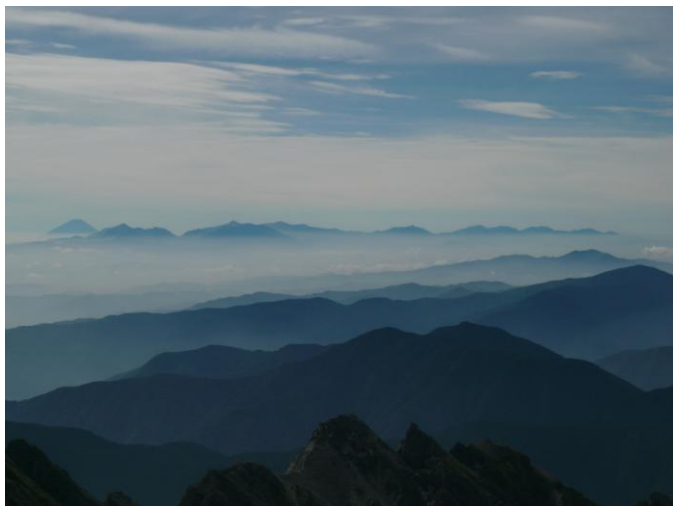
西穂高方面。右にジャンダルム、左に焼岳。来年は、
焼岳・西穂経由で診療所に入所したいです。



これから縦走する黒部五郎岳、薬師岳、立山など、北
方の山々が見渡せて、気持も高まる



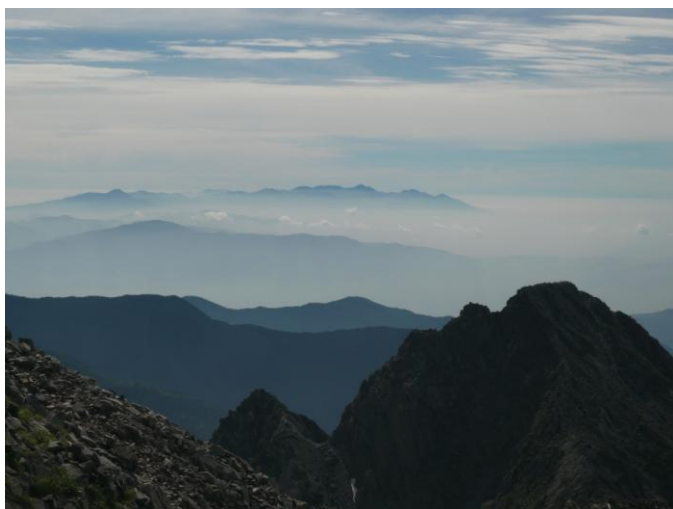
潤沢岳～槍が岳の稜線。
やはり、何ととっても槍が岳はいいです。



富士山と、この夏歩いた南アルプスの山々。
左から、富士山、甲斐駒ヶ岳、北岳（その手前に仙丈
ガ岳）、間ノ岳、少し離れて塩見岳、荒川岳、赤石岳、
聖岳。



やがて雪渓が現れたが、思ったよりも雪が少ない。
アイゼンをつけて一気に下る。



前穂高岳と、9月の連休に歩いた八ヶ岳。



荷継沢（左）との合流地点。雪渓のある右の白出沢を
下って来た。



白出のコルから見下ろした白出沢の急なガレ場。
ザックの重みが膝にこたえる。



白出沢

2日目（8月3日）

新穂高～クリヤ谷～笠ヶ岳

中尾キャンプ場 5:30 —（車道歩き 30 分）—
6:00 槍見 — 13:30 雷鳥岩 14:30 — 16:30
笠ヶ岳山頂 — 17:00 笠ヶ岳山荘テント場（幕営）



重太郎橋からは樹林帯の歩きやすい道となる



白出沢出合



いろいろあって、へとへとになって到着した中尾温泉の合掌の森キャンプ場（翌朝撮った写真）。一人 1000 円だったが、中に露天風呂があり、なかなかよかった。ここから焼岳山頂まで 3 時間半ほどで行けるようだ。



中尾温泉から登山口まで、この日登る笠ヶ岳を見上げながら車道を 30 分歩く。



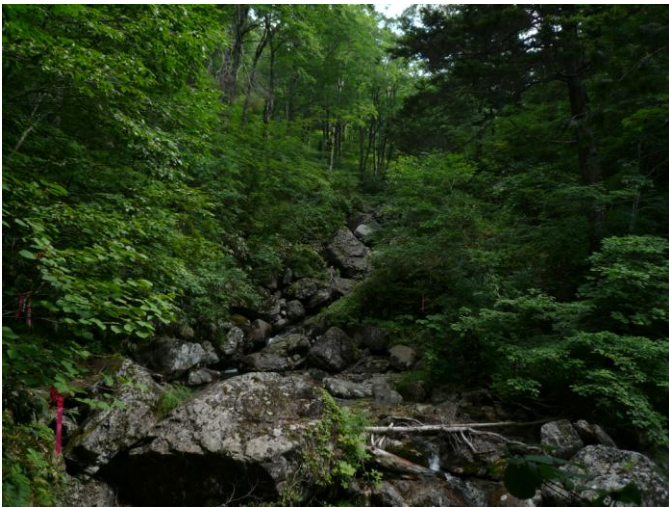
1 つ目の渡渉地点



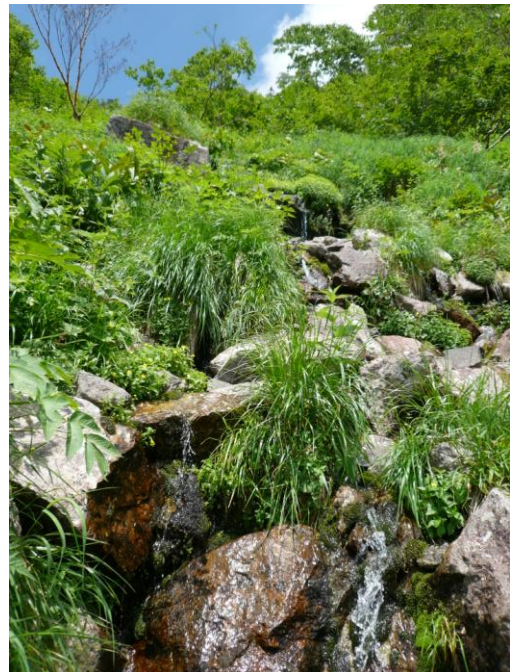
このような、明るく気持ちの良い道が続く



木々の間から、右手に穂高の稜線が見える。
左から、涸沢岳、奥穂高岳・ジャンダルム、西穂高岳。



2つ目の渡渉地点



最後の水場



稜線に出た。南の錫丈岳の方角を見る。



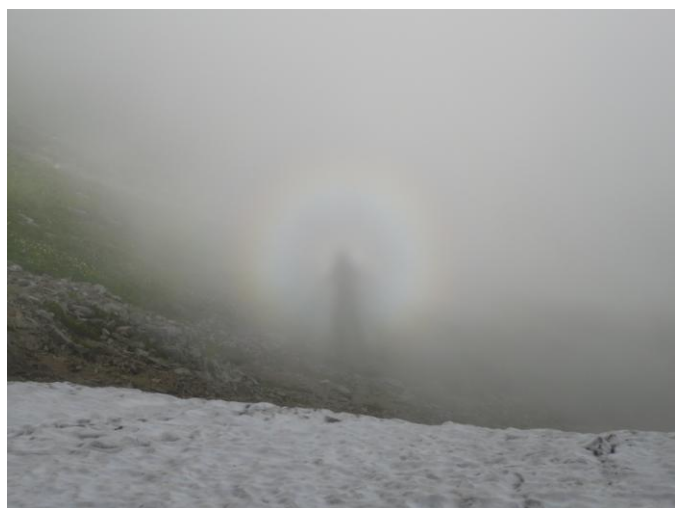
笠ヶ岳を目指す。山頂はまだまだ遠い。



歩いて来た道を振り返る



雷鳥岩。ここで1時間休憩。



ブロッケン現象



稜線上のなだらかな道が続く



笠ヶ岳山頂直下。板のような大岩が積み重なっている。



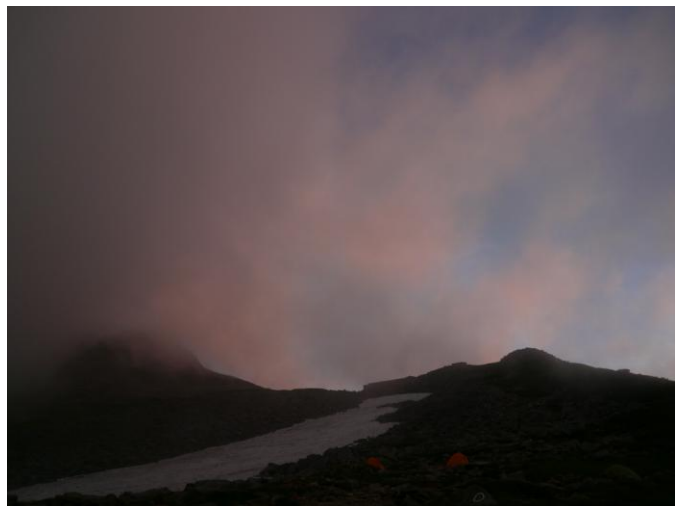
笠ヶ岳山頂



小屋は山頂直下にある。テン場はさらにその下（雪溪の脇）。



雲が切れて、槍ヶ岳が姿を現したが、穂高は相変わらず雲の中。左は、翌日歩く抜戸岳の稜線。



湧き上がる雲が夕陽に染まる。上まで登って西の夕焼けを眺めたかったが、さすがに疲れ果てて、テン場から動く気になれなかった（ちょうどこのとき槍ヶ岳山頂にいたM3三枝によれば、夕焼けがとてもきれいだったそうです）



テントの中から見る槍ヶ岳

3日目（8月4日）

笠ヶ岳～双六岳～黒部五郎小舎

笠ヶ岳山荘 5:00 — 6:00 抜戸岳 — 11:00 双六小屋（富山大診療所） 13:00 — 13:50 双六岳 — 15:00 三俣蓮華岳 15:30 — 17:00 黒部五郎小舎（幕営）



霧の中を出発。しばらくはなだらかな道が続く。
やがて、雨がパラパラ降り出した。



双六小屋が見えてきた



お花畑が広がる（秩父平付近）



富山大診療所の皆さん。温かくもてなして頂いた。
(数年前、富山医科薬科大学は富山大学と併合した)



弓折岳山頂



双六小屋を後にして、双六岳へ向かう。
(双六小屋のカレーはお勧めです (800 円))



雨が止み、雲が切れてきた



三俣蓮華岳向かう道



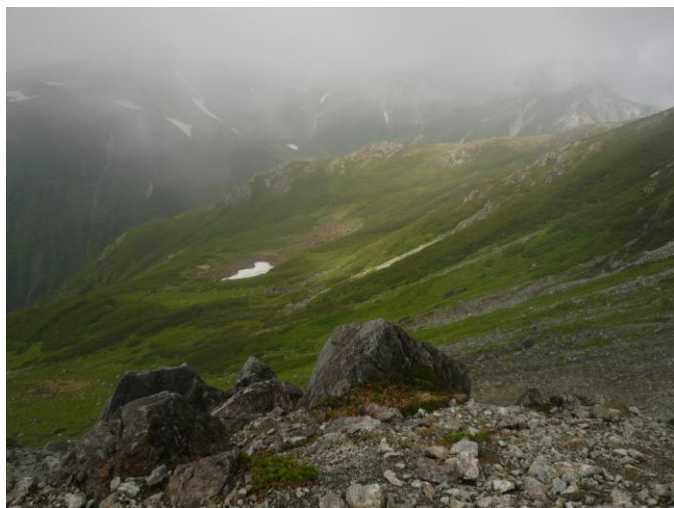
小屋から 30 分ほど登ると、このような景色に。双六岳山頂まではほとんどまっ平。



三俣蓮華岳直下の登り



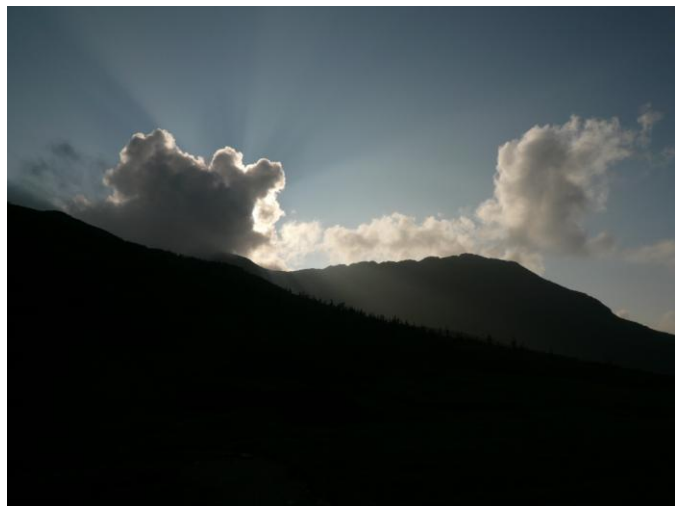
双六岳山頂



三俣蓮華岳からの下り。谷の向こうは雲の平。



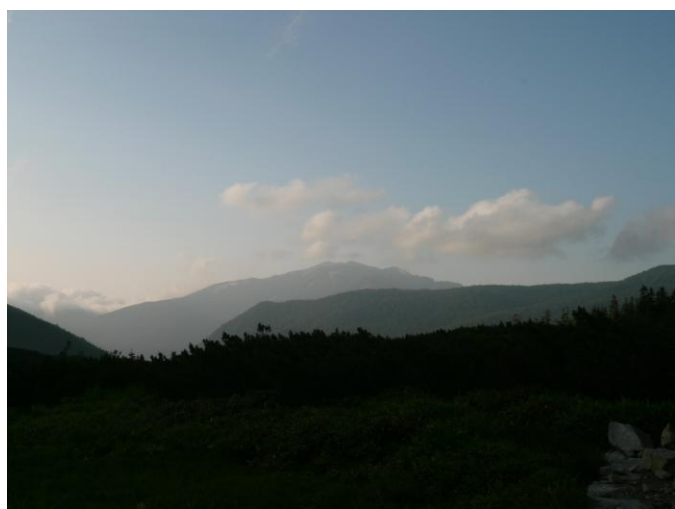
黒部五郎小舎が見えてきた。ここからは急な下りとなる。



五郎のカールを囲む尾根の向こうに日が沈む



黒部五郎小舎に到着



薬師岳



急に青空が広がり出した。テン場から見た黒部五郎小舎。後ろの山は、薬師岳。



小屋の前には湿原が広がる

4日目（8月5日）

黒部五郎小舎～黒部五郎岳～薬師峠

黒部五郎小舎 5:30 — 7:30 黒部五郎岳山頂
8:30 — 9:50 中俣乗越 10:00 — 10:45 赤
木岳 — 11:20 北ノ俣岳 11:35 — 13:10 太郎
平小屋 — 13:30 薬師峠キャンプ場（幕営）



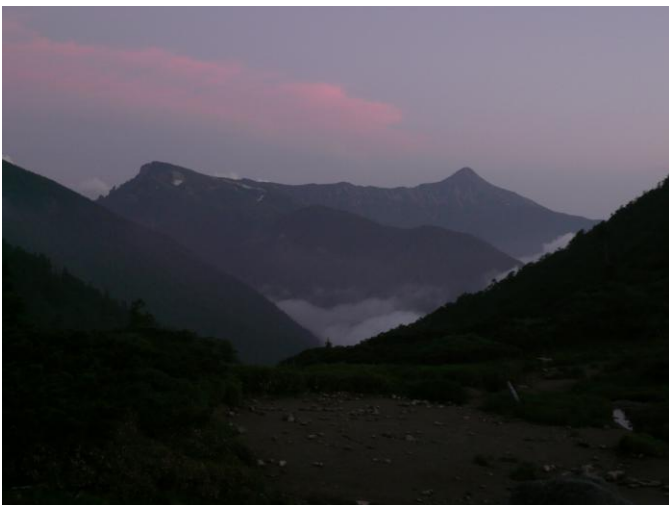
夕暮れの笠ヶ岳。小屋のスタッフの皆さんも、窓から顔を出してこの光景を眺めていた。



薬師岳



五郎のカールを目指す。左の少し盛り上がったところが黒部五郎岳山頂。



笠ヶ岳



小屋の方を振り返る



五郎のカールに入った。まるで箱庭のような景色。



山頂に到着。まだ人は少なかった。



氷河によって押し流された巨岩が点在する



箱庭のような五郎のカールを見下ろす。氷河で削られた様子がよくわかる。



稜線に出た。これから歩く北ノ俣岳（中央）への稜線。



どんよりとした曇り空。稜線の左からワリモ岳、鷲羽岳。三俣蓮華岳、双六岳（中央のてっぺんが平らな山）



笠ヶ岳



黒部五郎小舎が見える。ということは、小屋から山頂が見えるはずだが、前日は雲がかかっていた見えなかった。



どっしりとした薬師岳



黒部五郎岳から先へ進む。ここから薬師峠まで、女性的ななだらかな稜線となる。



鷲羽山の上に不思議な雲が。すぐ左のとがったのがワリモ岳。左に少し離れた高い山が水晶岳。





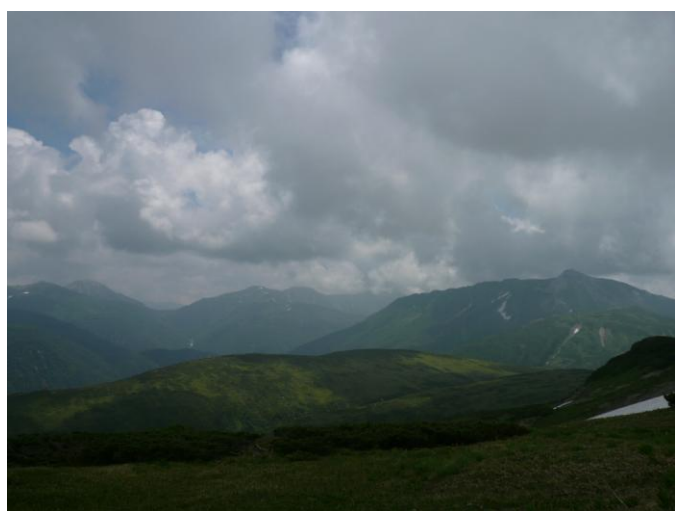
薬師岳



北ノ俣岳山頂



黒部五郎岳を振り返る



右は黒部五郎岳、中央は三俣蓮華岳、右は鷲羽岳



北ノ俣岳（2661m）への登り



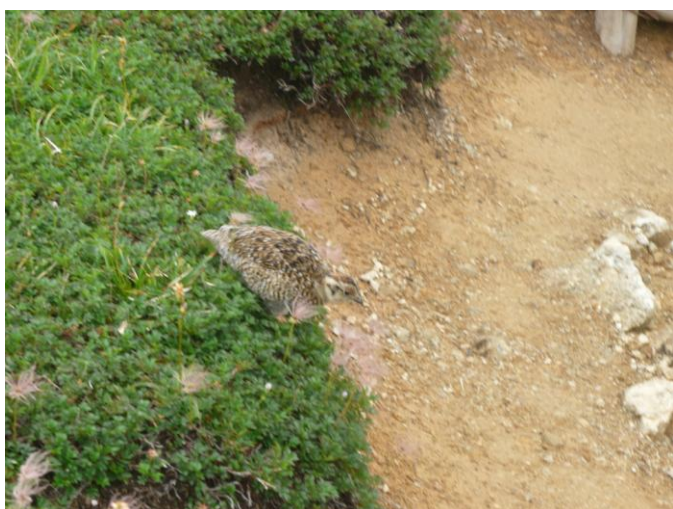
北ノ俣岳から下ると、湿原に樹がまばらに生える、東北のような景色に。



湿原保護のため太郎平までずっと木道が敷かれていた



太郎平小屋を後にする。ここから薬師峠のテン場までも、木道が敷かれていた。



雷鳥の親子



薬師峠のテン場。このあとテントの数はさらに増え、30 ほどになった。